



三島町【福島県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：1,638人 ■面積：91km²
■担当課：三島町教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



町の地域資源である文化財（指定・未指定を問わず）を継承してきた地域社会とそこに暮らす住民が中心となって、保存・継承・活用を行うための仕組みをつくり、町外の人々との交流を図りながら、産業振興・環境保全・生涯学習につなげていく。地域とそこに暮らす人々を主人公とした、歴史・文化の保存・継承・活用をめぐる「三島スタイル」の構築を目指す。

5 歴史文化を表す つのキーワード

民俗文化、縄文遺跡（編み組細工・漆）、
中世（戦国）遺跡、ものづくり、桐の文化

課題

- ・少子高齢化・過疎化のなかでの歴史文化継承
- ・歴史文化を通じた交流人口の拡大
- ・各地区の歴史文化の総合的な把握
- ・行政と地域住民が協働する体制

保存活用方針

- ・町の地域資源を活かした文化戦略を創る
- ・文化財を継承してきた地域社会を守り育てる
- ・地域住民と町外の人々が交流を図る仕組み
- ・地域の維持・再生を目指した仕組みづくり

▲ 保存活用のための取り組み

各地区の古老を講師に、小学生 の総合学習を活用した地区探検

小学校3年生の総合学習の時間を利用し、各地区の古老を講師として、寺社をはじめ、路傍の石仏・石塔、年中行事等を思い出とともに語っていただきながら地区を探検する、地区住民の「語り」による次世代への文化継承を目的とした事業。



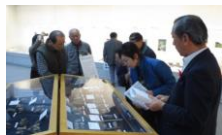
各地区で「地区の暮らしと文化 を語り合う会」を開催

各地区に生きる人々が大切にしている有形・無形の文化遺産を把握することを主目的に、「地区の暮らしと文化を語り合う会」を開催。個別に聞き書き調査も実施し、内容をまとめ、あらためて報告会等で各地区に発表、歴史文化継承に努めた。



発掘・報告書発行のみだった考 古資料を活用し、企画展を開催

町内において縄文時代、戦国時代の遺跡が十数ヶ所で発掘されているが、一部の著名な遺跡をのぞき活用がなされていなかった。あらためて発掘された考古資料を整理し、企画展等で町内外の人々の目に触れる機会を設けた。

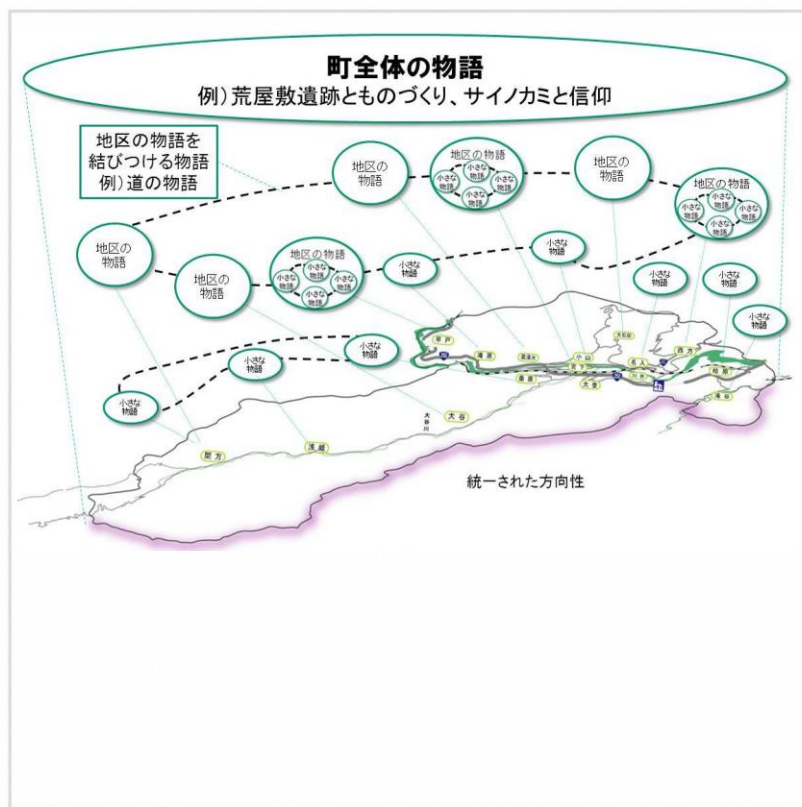


近世文書を解読し、講演等で研 究成果を町内外に発表

町内に近世を中心とした古文書が多数存在していたが、多くは解読がなされていなかった。歴史文化の継承を考える時、その活用が重要と考え、古文書が散逸する前に収集、その整理・解読を進め、講演等で研究成果を町内外に発信した。



関連文化財群



指定・未指定を問わず、人々の暮らしのなかで受け継がれてきた「物語」を中心とした関連文化財群とする。その規模の大小により、①小さな物語（小）②地区をつなぐ物語（中）③町全体を包み込む大きな物語（大）と三つに区分した。「語り」を通じ、複数の文化財を繋ぐことで、新たな保存・活用を図る。

ストーリー

- ① 縄文時代から続く編み組・漆文化（大）
- ② 道の物語—野仏・巡見使・川の道（大）
- ③ 年中行事—豊かな祈りのある暮らし（大）
- ④ 宮下ダム開発と大火の記憶（中）
- ⑤ 昭和の食糧難と日向山の暮らし（小）

策定後の成果（見込まれる効果）

① 関連文化財群の一つであった荒屋敷遺跡から出土した考古資料を、研究機関等の協力で最新の研究状況を踏まえつつ、現代の漆製品や編み組製品とコラボレーションした企画展などで町内外にPR。並行して、あらためて資料の再整理を進めた結果、平成30年3月に国の重要文化財に指定されることが文科省大臣に答申された。



② 国指定重要無形民俗文化財「三島のサイノカミ」を中心に、各地区で行われる年中行事（県指定無形民俗文化財）に訪れる観光客、学生等が増加傾向にある。また小中学生が自分の地区以外の年中行事に参加する（手伝う）取組も多く見られるようになり、町全体として文化継承に対する意識が高まってきている。



③ いくつかの地区では県や町の補助事業を活用し、各地区の歴史文化に基づいた地区づくりを行っている。滝谷地区では、中世の山城や江戸時代の宿場町であった歴史、明治時代に蚕種管理に利用した風穴や年中行事などについて、看板を設置したり、ツアーを実施するなど歴史文化を地区内外にPRしている。



① 荒屋敷遺跡出土品が国重要文化財指定に

② 年中行事を通じた町内外の交流

③ 歴史文化を活かした地区づくり